

国分寺市障害者基幹相談支援センター事業  
 令和2年度 国分寺市相談支援スキルアップ研修 ネットワーク研修Ⅱ（障害福祉―高齢福祉）  
**「世帯を支える支援体制とは」**  
**実施報告書**

日時	令和元年 10月9日（金）	会場	cocobunji プラザリオンホール A
	午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分	主催	国分寺市障害者基幹相談支援センター

### 1. 目的

- ・「世帯を支える支援」について、障害分野と高齢分野がともに学ぶ機会を持つことで、制度を超えた支援ネットワークの構築を図る。
- ・研修を通じて制度を超えた顔の見える関係をつくり、互いの実際の支援に活かせる関係性の土台をつくる。それぞれの立場や役割の違いを活かした支援体制の具体的なイメージを共有する。
- ・互いに感じている支援の困難性を共有し、世帯を支える視点で検討・連携・協力し合える支援体制の構築につなげる。

### 2. 講師

石田 賢哉 氏（青森県立保健大学 健康科学部 社会福祉学科 教授）

### 3. 開催方法

Web 開催（Zoom Cloud Meetings）によるライブ配信。

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、Web 会議システムを活用したリモート研修とした。
- ・Web 参加ができない人は cocobunji プラザ リオンホール Aホールにて会場参加とした。

### 4. タイムスケジュール

午後 2 時 00 分～午後 2 時 05 分	開会挨拶（国分寺市障害者基幹相談支援センター長 銀川紀子）
午後 2 時 05 分～午後 3 時 05 分	講師講演
午後 3 時 05 分～午後 3 時 20 分	休憩（会場換気）
午後 3 時 20 分～午後 3 時 50 分	質疑応答
午後 4 時 00 分	閉会

### 5. 参加状況

参加者：25 名（Web 参加：22 名、会場参加：3 名）

〈参加者内訳〉

相談支援事業所 （地域活動支援センター含）	12 名	地域活動支援センター虹・地域活動支援センターつばさ 相談支援事業所のぞみ・こどもの発達センターつくしんぼ 相談支援事業所コトリナ・地域生活支援センタープラッツ 合同会社ゼフィール国分寺
地域包括支援センター等	8 名	国分寺地域包括支援センター こいがくぼ・ひよし・なみき・ひかり
社会福祉協議会等	2 名	地域福祉コーディネーター・民生委員
行政	3 名	国分寺市高齢福祉課・国分寺市障害福祉課 国分寺市生活福祉課
参加者合計	25 名	他、講師 1 名、事務局 5 名

## 6. 研修内容

本研修は、市内相談支援事業所等（障害分野）と市内地域包括支援センター（高齢福祉分野）、社会福祉協議会（地域福祉分野）、及び相談支援に関わる行政等の関係機関が、世帯を支える支援のためにも学ぶ連携研修である。研修目的である、制度を超えた支援ネットワークの構築を図るため、本来は講演とグループワークを組み合わせた研修方法を取っているが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から初めてWeb開催を取り入れ、講演会形式での研修を行った。

「世帯を支える支援体制とは」をテーマに、世帯を捉えた支援の視点、世帯にかかわる支援者の姿勢、分野横断型の支援の重要性について、分野を超えて支援の視点を共有し、共通理解を図ることを目的として、講師の石田賢哉氏より講演をいただいた。

### 〈講演概要〉

福祉職のプロとして、利用者や家族等から常に評価されていることを意識し、相談に来る人の根底のあるものは何かを考えること、スタンダードな支援技法を軽視せず、関わりの根拠をわかりやすく説明できること、相手から学ぼうとする姿勢を持っていること、等が大切な基本的姿勢となる。また、自身の支援や自分たちの分野での完結を求めず、引き継ぐことの大切さを理解することが、一人ひとりのライフステージに寄り添った、切れ目のない支援につながる。対人援助（福祉職）のプロとして、制度をつなぐ意識を持つことが重要である。

「世帯を支える支援体制」を考えた時には、必然的に分野横断型の支援にならざるを得ない。制度軸での縦割りの支援では、利用者が主役にはなり得ない。支援者側が制度をつなぐ意識を持ち、何ができるかを利用者に説明し、利用者側が選べるように選択肢を提示する関わりが大切である。そのためには、地域の資源や関係機関同士がつながる必要がある。

福祉職のプロとは、医療職とは違い、一人ひとりの人生や生き方にいかに向き合えるかが重要となる。近年、関わるケースの多様化、複雑化、深刻化もみられるなか、様々な福祉を必要としている存在を理解し、利用者との信頼関係を構築し、利用者と一緒に、一人ひとりの人生を誠心誠意考えることができる人がプロであることを意識してほしい。何ができるのか、何をしなければならないのかを考え、支援のシステムを地域で構築していくことが、地域の支援力の向上につながっていく。

## 7. まとめ

これまで、ネットワーク研修Ⅱ（障害福祉—高齢福祉）では、地域のネットワーク構築に関する講演や話題提供を基に、障害分野と高齢分野の支援者たちが、国分寺市における実践の情報共有と検討を行うグループワークを通して、各機関の立場や役割の違いを活かした「国分寺支援チームの実践」につなげることを目指した研修会を重ねてきた。今回は、コロナ禍におけるネットワーク研修の開催となり、感染拡大防止対策をとりながら、どのようにネットワーク研修を行うかについての検討を、開催案内送付時期の直前まで行った。結果、自立支援協議会でも感染防止対策として行われている、Web会議システムを活用したリモート研修として開催し、内容は講演会形式とすることを決定した。初めての試みではあったが、参加者もWeb会議システムの活用慣れてきた状況もあり、Web上での研修開催自体は問題なくスムーズに行うことができた。参加者からは、感染の心配なく安心して研修に参加できたとの声が寄せられた。

今回はWeb開催で可能な内容を検討し、グループワークは行わず、講演会のみとしたが、相談支援事業所の参加者からは、内容が物足りなかったという声が多く寄せられた。各分野の支援と世帯を支える支援体制に必要な視点を共有することで、今後の支援ネットワーク構築に活かしていくことを念頭に置き、講師に講演依頼をしたが、「世帯を支える支援体制とは」のテーマから参加者が期待する講演内容と、講師の講演内容とに差が生じてしまい、講演自体は大変良かったが、テーマと併せて考えると物足りなかった、という声が多い結果となった。アンケートでは、引き続き世帯を支える支援体制を深めたい、多機関での情報共有や検討をしたい、との声があった。これらをネットワーク研修に期待を寄せる声として受け止め、今後も「国分寺支援チームの実践」をより一層深めることを目指した研修企画を工夫し、実施していく。

国分寺市障害者基幹相談支援センター事業（国分寺市委託事業）

令和2年度 国分寺市相談支援スキルアップ研修会 ネットワーク研修Ⅱ

## 「世帯を支える支援体制とは」

アンケート集計結果 参加者：25名 アンケート回収：12名（回収率48%）

## 1. 本日の研修はいかがでしたか。

たいへん参考になった	： 5名（42%）
参考になった	： 7名（58%）
普通	： 0名
あまり参考にならなかった	： 0名
その他	： 0名

- ・振り返るべき視点を再確認する良い機会となった。
- ・改めてプロ意識の大切さを思い出せた。
- ・分野で完結せずに引き継ぐことが大事だということ。ネットワーク研修としてはやや物足りなかった。
- ・テキストマイニングは難しかったが、地域懇談会で使えるかもしれないと思った。
- ・私たちの業務はすぐに解決したり効果がみられる仕事ではない。引き継いでいく視点と、縦割りの仕組みを横につなぐのは我々だという視点を学んだ。
- ・8050やひきこもりなど、高齢者を取り巻く周囲の人や環境に関する相談が入る。1つの世帯として他機関と連携しながら関わるのが重要だと思った。
- ・ホスピタリティを大切にしたい支援を実践していきたい。
- ・相談業務は初めてなので、プロとしての心得を学ぶことができて良かった。
- ・対人援助のプロとは、新人やベテラン関係なく、何が出来るか、クライアントと共に悩み、共有して歩んでいくことが大事であると学んだ。
- ・ホスピタリティについて大変勉強になった。

## 2. 今後、実際の業務で取り組みそうなことは見つかりましたか？具体的にお書きください。

見つかった	： 12名（100%）
見つからない	： 0名
どちらともいえない	： 0名
無記入	： 0名

- ・「プロ意識」やプロとしての対応について、改めて考えさせられた。
- ・役所でできるホスピタリティを考えたい。
- ・相談者の思いに常に寄り添うよう、「慣れ」で対応せぬよう、心掛ける。
- ・制度に当てはめるのではなく、人の一生について考え、支援している、という言葉はその通りだと思う。改めて念頭において業務にあたりたい。
- ・その人の気持ちを受け止め、一緒に考えていく姿勢や、「新人なので」と言わないこと。
- ・改めて自身の相談支援におけるプロ意識について、わが身を振り返り、今後活かしていきたい。
- ・まずは相談者の不安を受け止めることが大切、と改めて認識した。ケースの振り返りも重要なプロセスであり、継続して取り組みたい。
- ・日々の記録をテキストマイニングで分析できたら、より地域の特性等がわかってくると感じる。
- ・相手の考えや何に困っているのかを聴き、それに対してできることを明確に示すこと。人生に関わることなので、基礎をしっかりと持ち、家族の不安を受け止め、支援につなげていきたい。
- ・問題解決を求めている人に寄り添い、共に歩んでいきたい。
- ・福祉のプロであることに誇りを持つこと、「決めない」という会議のルールについては実践に活かしたい。

**3. 今後、基幹のネットワーク研修（障害福祉—高齢福祉）に期待すること等ご自由にお書きください。**

- ケアマネジャーへの支援が大切だと思った。ケアマネジャーが参加，連携できる研修をお願いしたい。
- 切れることなく支援が続くにはどうしたら良いか。多くの関係機関で，できることを毎年共有したい。
- いろいろ相談にのってほしい。
- 障害者の支援についてはわからないことがあるので教えてほしい。
- 高齢者と同居している課題を抱えた子（40代～65歳）に対する支援のつなぎ先を知りたい。親亡き後の子に対する支援やアプローチの仕方について，学ぶ機会が欲しい。
- 障害と高齢のそれぞれの知識や相談対応についての共有。
- いつも様々な角度から問題提起してもらっている。利用者が主役となる福祉を目指したい。
- 情報の共有や連携について。各事業所の取組など，障害福祉に関する事業所の情報。

**4. その他、今後の研修で取り上げて欲しい内容や研修会への要望等ご自由にお書きください。**

- 多世代に関わる支援については引き続きお願いしたい。
- 引き続き，世帯を支える支援体制について深めていきたい。
- Web研修はとても有効的だった。感染症対策をとりながら安心して参加できた。
- 複合的な課題について，国分寺市でできる支援など，多機関で話し合う場があると良いと思った。
- ニーズが複雑化した家族の支援についての事例検討。
- 相手の立場にたって気持ちを受け止める術や，コミュニケーションで大事なことを学びたい。
- 様々な疾病について，それぞれの病気の特徴や関わり方等についての注意点，配慮すべき点等。

**5. 所属している団体についてお教え下さい。**

相談支援事業所：1名	地域活動支援センター：0名	地域包括支援センター：6名
社会福祉協議会：1名	行政職員：3名	その他：1名